

# 集落ぐるみ営農集団の組織化手法

## 1. 調査のねらい

米価の低下や転作率の増加等により、個別対応による稲作経営の環境は年々厳しくなっており、効率的な稲作経営の実現には、地域的・組織的な生産システムの確立が不可欠である。そこで、その手法の1つである集落ぐるみ営農集団を組織化するための手法を明らかにする。

## 2. 調査方法

平成11年度豊かなむらづくりコンクールで農林水産大臣賞を受賞した真岡市西沼集落を対象とし、代表者からの聞き取りや営農集団の収支決算書の分析をもとに、集落営農の組織化過程を調査した。

## 3. 調査結果および考察

- (1) 西沼集落は総世帯数57戸うち農家数が43戸、耕地面積53haうち水田面積が44haである。農家は施設野菜経営と兼業稲作経営とに分けられ、前者では施設面積の拡大、後者では機械の過剰投資防止がそれぞれ課題であり、それらを実現する基本的条件が機械の共同利用と効率的活用のための土地基盤整備であった。その推進に寄与したのが、集落の将来を担う若手層を主体に結成された「西沼の農業を考える会」で、話し合いによる合意形成の場を確保していた。
- (2) 特記される点は、地権者全戸に対して専業農家(施設野菜経営)でいくのか、兼業農家として農地を維持するのか、集落役員が将来の経営指向の確認を行ったことである。その結果を事前換地に活かし、集落農業の担い手である施設野菜農家のハウス敷地の確保を優先に事業が進められた。
- (3) 基盤整備事業に対する集落合意の背景として、集落西側の農地10haを商工タウン地として市に売却して工事費用に充当し個人負担をゼロとしたこと、地権者全員に分家住宅地用の土地を確保したこと、生活道路の改修、集落公民館の新築を事業に盛り込んだことがあげられる(図-1)。
- (4) 専業農家・兼業農家の双方に負担となってきた稲作の省力化を図るため、趣旨に賛同した20戸で営農集団を結成した。兼業従事者をオペレータに配置し、また、高齢者を積極的に活用している。特に、後者の果たす役割は大きい(表-1)。このように、専業農家だけが運営に参加するのではなく、多様な担い手の確保を図って実績を年々高めている(表-2)。
- (5) 生産部門の合意が生活・環境部門への合意に結びつき、集落住民の求心力をより高めた。高齢化問題に対応したミニ・ディホームの実施、メダカの貴重な種の保存を目途としたメダカの里づくりがそれである。生活・環境部門の整備は地域住民全員の老若男女が関わりを持ち、かつその享受を等しく得ることができる。

## 4. 成果の要約

真岡市西沼集落を調査した結果によると、土地基盤整備事業＝稲作の省力化が集落ぐるみ営農集団組織化の契機であった。稲作の省力化は集落構成員個々の共通課題であり、「話し合いによる合意形成」をその推進方策の基本とした。営農集団の結成にあたって農業専従者のみならず、兼業従事者・高齢者も活躍できる生産の仕組みを構築したことが、集団運営の安定化に結びついている。集落住民全員を対象としたミニ・ディホームの実施、メダカの里づくりといった生活・環境面の並行的な活動が合意形成をより得やすくした。

(担当者 経営管理研究室 斎藤一治\*) \*現 塩谷農業振興事務所

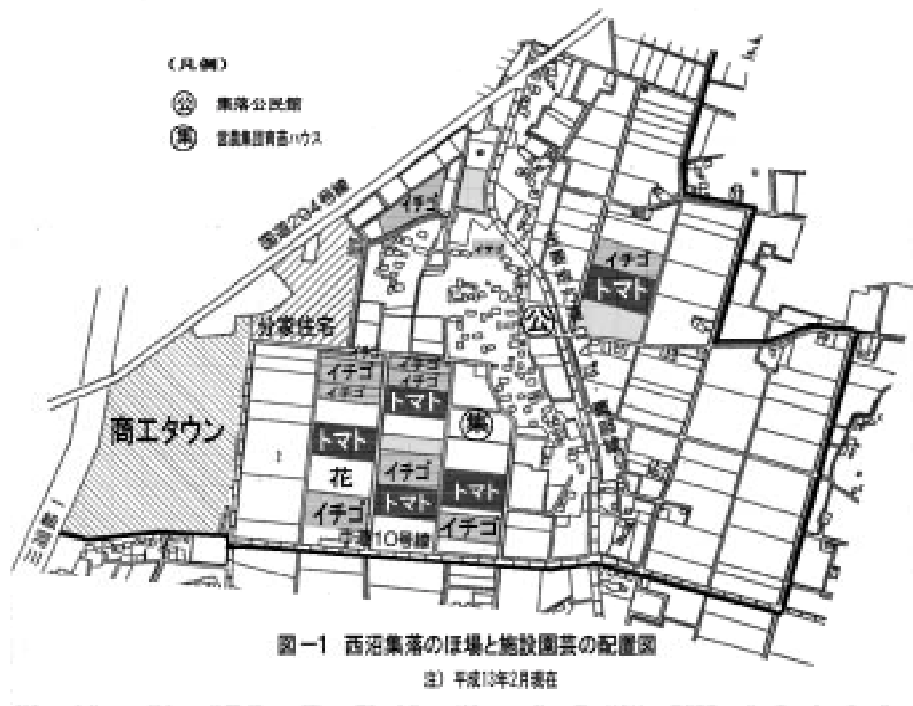


表 - 1 共同作業への出役状況

No	農 家						稲刈作業の出役時間			育苗作業への出役			
	員内 員外	専兼別	基 作 物	幹 物 農 家	オペレータ 役職	経営者 年 齢	オペレータ (hr)	補助 (hr)	合計 (hr)	出役者 年 齢	(注)	回数 (回)	時間 (hr)
1	員内	専業	トマト			61							
2	員内	専業	トマト		副集団長	49				49		2	7
3	員内	専業	トマト			43		20	20				
4	員内	専業	トマト		集団長	50	21	5	26	50		1	2
5	員内	専業	トマト		顧問	56		5	5	56		2	11
6	員内	専業	いちご		会計	49	1.5	1.5	3	49		2	4
7	員内	専業	いちご			38							
8	員内	専業	いちご			47				47		2	5
9	員内	専業	いちご			66							
10	員内	専業	いちご			64							
11	員内	専業	いちご			60				60, 66	,	2, 1	5, 1
12	員内	専業	いちご		監事	43	13	12	25	43		2	5
13	員内	専業	いちご			53							
14	員内	兼業				45	7	47	54	67		4	7
15	員内	兼業			監事	65	8.5	44	53	65, 66	,	7, 2	13, 5
16	員内	兼業			副集団長	46	50	3	53				
17	員内	兼業				47	8	4	12	67		1	2
18	員内	兼業				52							
19	員内	兼業				66				63		2	5
20	員内	兼業				47		47	47	73		2	5
A	員外									78, 66	,	1, 3	3, 5
B	員外									68, 63	,	7, 4	17, 8
C	員外									63		1	1
合計							109	189	298	60.9		48	113
専業農家(園芸農家)							35.5	43.5	79	52.3		14	42
兼業農家							73.5	145	218.5	66.8		18	37
員外										67.6		16	34

注) は60歳未満男、 は60歳未満女、 は60歳以上男、 は60歳以上女

表 - 2 受託作業の推移

作業名	平成6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年
稲刈(a)	551	680	908	1,178	1,200	1,604	1,803
田植(a)		454	748	967	1,142	1,359	1,440
育苗(箱)				3,897	3,757	4,390	4,392
耕起(a)					1,630	710	(38.8)

注) 平成12年度の耕起作業はトラクターのアワーメーターの実数である。